

カリフォルニア大学バークレー校東アジア言語・文化学部
日本語プログラム概要
長谷川葉子

1896年、カリフォルニア大学バークレー校に東洋言語学部が設立され、1900年に初の日本語コースが開講されました。これが米国での日本語教育の始まりだと言われています。以後、日本語学習者は年々増加し、非常に大きいプログラムになりました。最近の統計はありませんが、一時は、ハワイ大学に次いで、全米第二の規模だったと記憶しています。(今でもそうかもしれません。)

プログラムの構成は、レベル1 (一年生と呼んでいます) からレベル5まで、それに継承話者のためのコースと中国研究の大学院生のためのコースを開講しています。

秋学期		春学期	
J1A	一年前期	J1B	一年後期
J10A	二年前期	J10B	二年後期
J10X	継承話者二年	J100X	継承話者三年
J100A	三年前期	J100B	三年後期
J101	四年 (社会科学)	J102	四年 (文化)
J103	四年 (文学)	J104	四年 (歴史)
J111	五年前期	J112	五年後期
		J100S	中国研究者用

当プログラムでは、全学年を通して、日本の文化、習慣に見合った言語活動をするのに必要な言語機能を習得するよう指導しています。教科書は、以下のものを使用し、四年生以上は、新聞、新書、小説、および当プログラムのオリジナル教材を用います。映画のクリップを含むマルチメディア教材も多用しています。

J1	<i>Elementary Japanese Vol. 1 & Vol. 2.</i> Boston: Tuttle. 2005-2006.
J10	<i>TOBIRA: Gateway to Advanced Japanese.</i> Tokyo: Kurosio. 2009.
J100	新・中級から上級への日本語. Tokyo: Japan Times. 2012.

一年では基礎語彙や構文を中心に、聞く・話す・読む・書くの四技能をバランスよく学び、日常生活を話題にした会話ができるようになることを目指します。漢字は約300、敬語も早期から導入されます。二年では、身の回りから社会へと視野を広げ、時事問題や日本文化を理解し語れるよう、言語応用能力の開発に焦点を当てます。新出漢字は約400で、状況依存度の高い複雑な語彙・構文もたくさん導入されます。J10XとJ100Xは、普通のコースで学ぶ一年分の量を一学期でこなし、継承話者に限らず、集中的に日本語を学びたい学生が受講しています。

三年になると、難易度はさらに上がり、話題は抽象的なものが多く含まれるようになります。三年終了までで習得する漢字は約1,000です。日本語専攻で必修なのは三年までですが、専攻する殆どの学生は四年に進みます。四年、五年では、日本文化や社会について議論したり、日本語文献を基に小論文を書いたりという、高度なレベルを目指します。五年前半のJ111には、日本語能力試験N1の受験準備も含まれています。当プログラムの詳しい説明は、<http://japanese.berkeley.edu/> をご覧ください。